



01



02



03

01. 縮緬切りばめ細工の米袋と下書帳(箱入)
明治44年(1911)頃 個人蔵

02. ホトケサマへのお土産(絹地に刺繍の米袋、
りん台、打敷)
昭和36年(1961)頃 個人蔵

03. 現代の創作米袋
平成31年(2019) 制作:りんりん制作事ム所

愛荘町や近隣地域には、嫁入りの際に先祖への敬意をこめて「ホトケサマへのお土産」を持参するという独特の風習がありました。代表的な土産は、米袋、りん台、打敷で、中でも必需品とされたのが米袋です。

かつて、冠婚葬祭などに米を持参したり供えたりする習慣は全国で見られました。米の持ち運びに重箱などを使用した地域もありますが、布製の袋に入れるのが一般的で、その呼び方や形状はさまざまでした。町内では、米袋、あるいは容量に応じて一升袋や二升袋などと呼び、巾着型で底を六角形に仕立てたものが多く用いられてきました。明治から昭和の中頃までに作られた米袋には、切りばめ細工や刺繍を施したもの、端切れを複雑につなぎ合わせたものなどがあり、作り手の技術の高さを知ることができます。「女性は裁縫ができて当たり前」といわれた時代、手製の米袋は十分な裁縫技術を身につけていることの証でもあり、嫁入り前になると裁縫塾などで作り方を習って準備しました。昭和30年代以降、裁縫技術が重んじられなくなるにつれ、米袋は既製品のシンプルなものと変化していき、現在では米のやりとりそのものが消えつつあります。

町内の一部の地域では、現在も正月や盆の寺参り、仏事や祭礼などに米を持参する風習が残っています。各家庭で大切に受け継がれてきた米袋を通して、暮らしの中で育まれた手芸文化とその背景を探ります。

関連企画

てしごとワークショップ

「いいことあるかも!? 四つ葉袋をつくりましょう」

ひもをしぼるとクローバーみたい! 手縫いで仕上がる「四つ葉袋」をつくりましょう。葉っぱに「ばった」や「てんとう虫」などのイラストや名前の刺繍を入れることができます。詳しくはワークショップチラシをご覧ください。

【日 時】10月12日(土) 13時30分~15時

【場 所】刺繍屋ポイトコセ(愛荘町愛知川1764-1)

【申込み】刺繍屋ポイトコセ(TEL 0749-29-1948)

【定 員】10人(要予約・先着順)

【参加料】1,000円(材料費込み・刺繍1点の場合)

※刺繍1点につき+500円で最大4点まで刺繍可能です。



【主催・問合せ】

愛荘町立愛知川びんてまりの館

愛荘町立愛知川図書館

〒529-1313 滋賀県愛知郡愛荘町市1673

TEL (0749)42-4114

FAX (0749)42-8484

【交通のご案内】

◆車で:国道8号「愛知川」信号より東へ5分。

◆電車で:JR能登川駅からバス「市ヶ原」行乗車「愛知川駅」下車徒歩7分。

または、近江鉄道「愛知川駅」下車徒歩7分。

